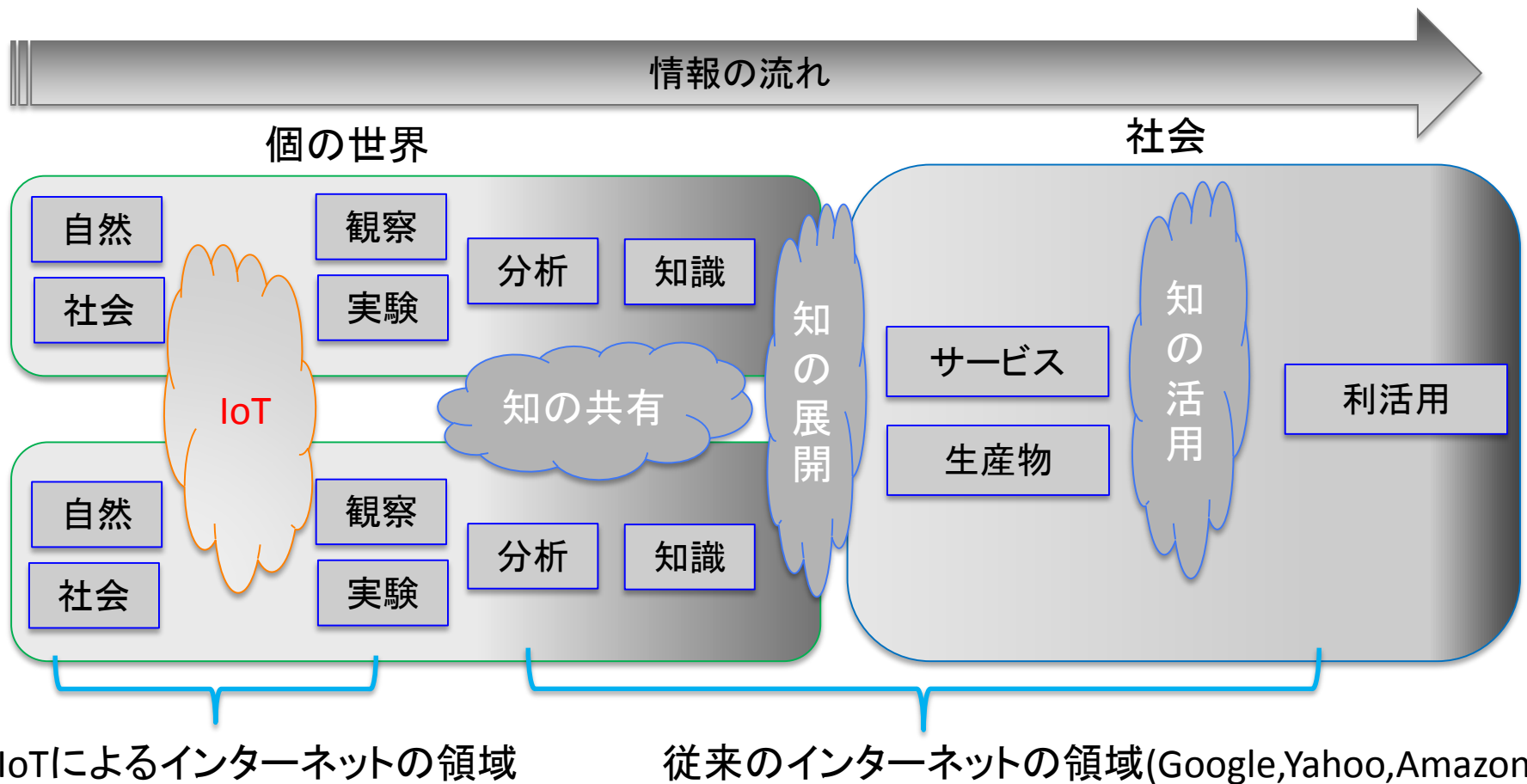


データ共有/流通の実現 課題と解決の仕組み

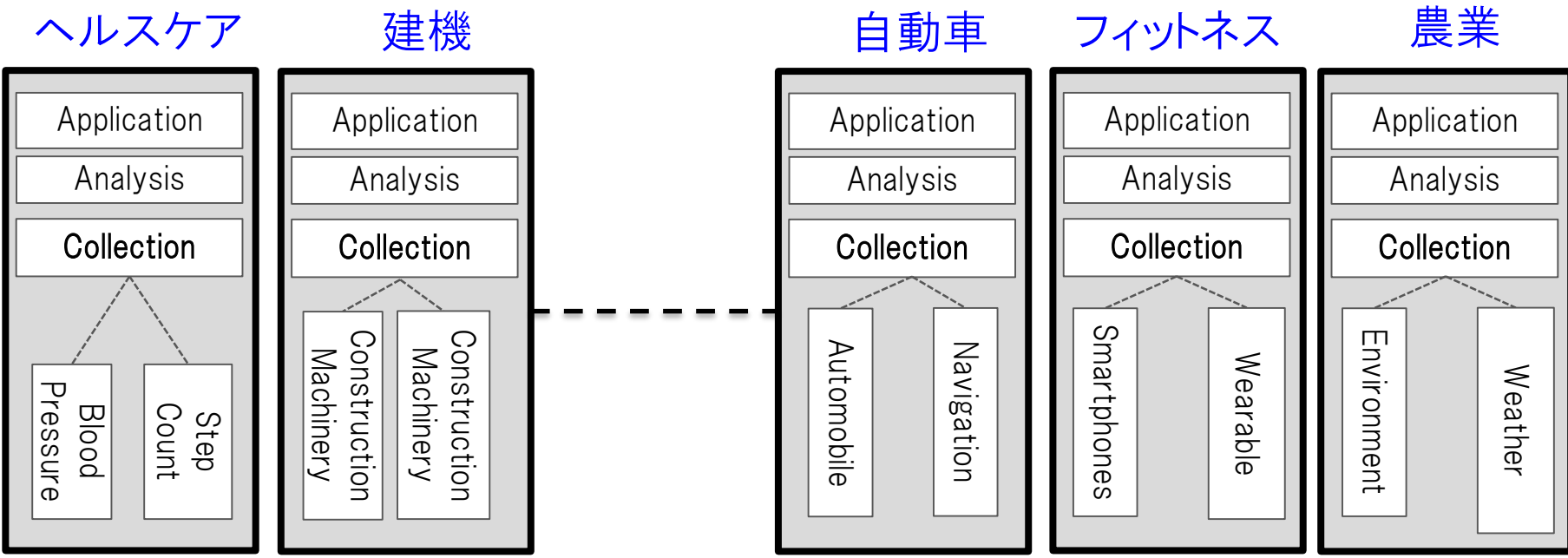
IoTの広げる新領域

- IoTは、個々の情報リーチを広げ、全ての上流工程をドライブする。



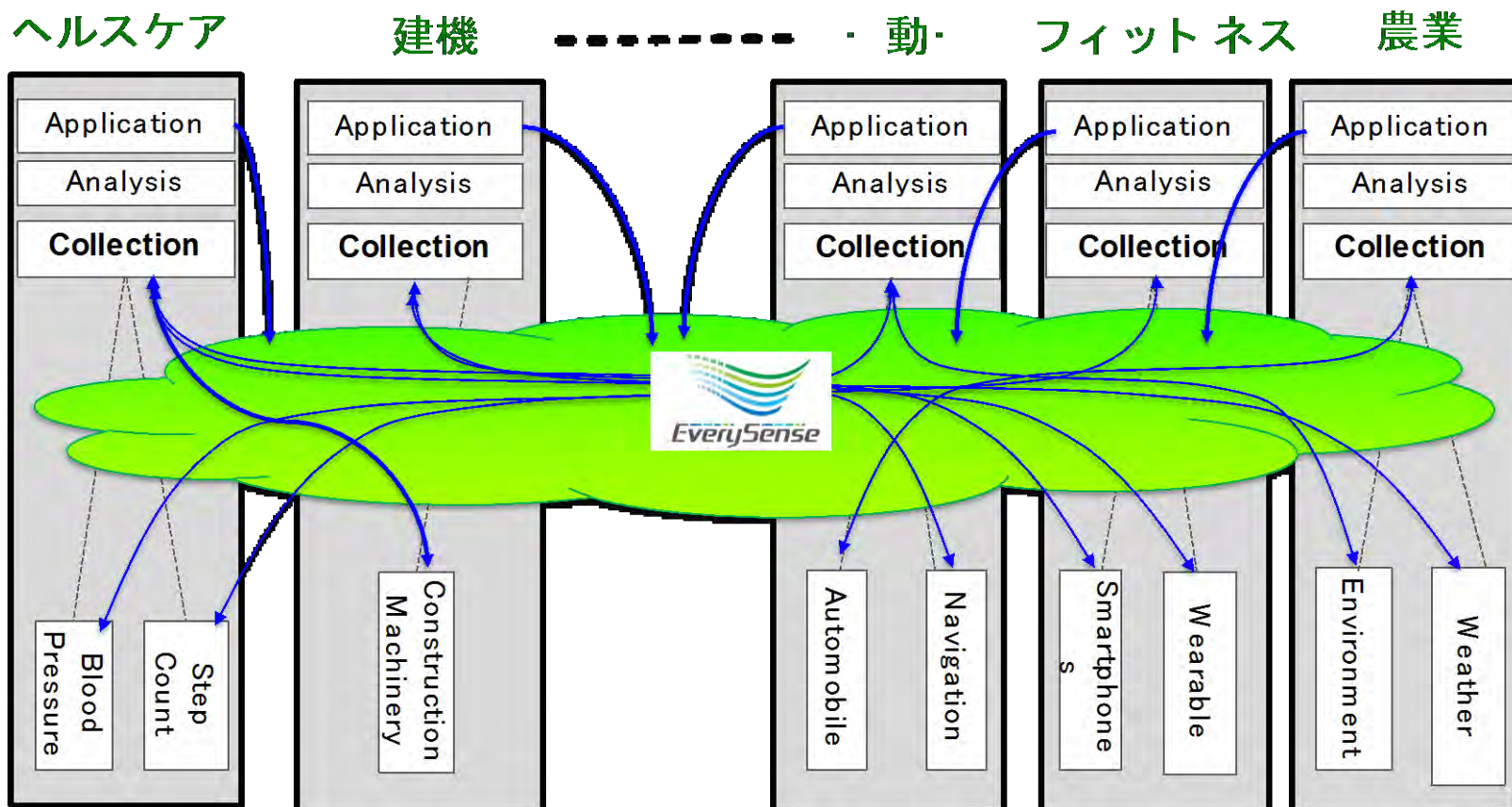
IoTの課題

“Intranet of Things” ≠ “Internet of Things”



- 必要なIoT デバイス類を単独ですべて配置できますか?
- 要求されるすべての情報(データ)を自前のIoTインフラですべて収集できますか?

データ取引市場EverySenseが実現する “The Internet of Things”



- 全ての人が必要な情報を、既存のIoTネットワークを変更することなく提供・収集が可能となります

既存IoT事業の課題(ビジネス)

- 自らが設置・運用するIoT製品(センサーや機器)による情報しか得られず、**付加価値サービスの創出、マネタイズ可能な十分な情報収集**とならない。
- 単一、単独の組織、企業では、ビッグデータを得る**広範なIoT製品(センサーや機器)の展開**が困難である。
- 収集後の統計的データの取引では、**即時性のある利活用(予測等)**が困難である。

既存IoT事業の課題(個人)

- **情報のオーナーシップ**

- IoT機器により自らが生成した情報が、機器提供者やサービス提供者の管理下であり、利用の範囲などを自由に制御できない。

- 知らされない

- **価値の配分**

- IoT機器により自らが生成した情報の利活用による付加価値は、自らに配分されない。

- 還元されない

必要な二つのプリミティブ

- **相互接続**
 - 機種、デバイスに依存しない自律分散型相互接続性
 - なんでもつながる
- **信頼できるデータ流通取引市場**
 - 情報のオーナーシップを確立
 - プライバシーと公平性を担保
 - データの価値が分配される

データ取引市場EverySenseが提供するサービス



- あらゆるデバイスがつながる相互接続性
 - デバイス・機種依存の排除
- IoTデータの価値分配の仕組み
 - 中立で公正なデータ流通市場